

第5回合同調整委員会を開催—4年間の活動を総括



左・研修教材への署名を行うASTT局長ファン・バン・タック氏、編者代表の看護協会長ファン・デュック・ムック氏とチーフアドバイザー堀井。右・研修効果を示す調査結果



左・研修システムの全国展開に向けた戦略を発表するASTTファン・グアン・ザン氏。右・プロジェクト成果を発表するASTTファン・グオック・パン氏



3月4日、新プロジェクトダイレクターである保健省科学技術訓練局 (ASTT) ファン・バン・タック氏をチェアに迎え、本プロジェクトの最終合同調整委員会 (JCC) が開催されました。

会議では、まずASTTバン氏より、4年間の活動を通じてプロジェクト目標が達成されたこと、経済協力開発機構/開発援助委員会 (OECD-DAC) 5項目評価では、ほぼすべての項目が“高い”到達度であったことが報告されました。次にチーフアドバイザー堀井が、アンケート調査等の結果を用いてプロジェクトが開発した研修制度の効果を客観的に示しました。最後にプロジェクトマネージャーのザン氏が、研修制度の全国展開に向けた戦略案について発表し、パイロット省のJCCメンバーからは管轄病院に普及することは自分たちの責任であるとのコメントもありました。戦略案は、今後、JCCメンバーの意見を踏まえて修正されたのち、副大臣に提出される予定です。

研修教材が保健省に承認されました—研修システムの持続性担保にむけて

プロジェクトでは、2019年2月よりパイロット省各病院において教材 (第2版) を用いた研修を実施してきました。2020年1月にはその結果を踏まえ第3版を完成。2月に国家審査委員会に提出し、委員会の座長であるバックマイ病院元院長のハン氏をはじめ、7名の国内有識者により審査されました。

その結果、プロジェクトで開発した教材は、パイロット省だけでなく、全国で使用する標準的な臨床研修の教材として承認され、保健省の決定(Decision)が発行されました。



審査を通過し、研修教材が全国で使用可能になったことを示す保健省の決定 (Decision)



承認された教材一式：上段・左から臨床研修カリキュラム、プリセプター (指導者) 教材、運営ガイドライン、下段・教科書 (第1巻・第2巻)